

業況判断D I 7月~9月は△22.8と依然大幅なマイナス

【2021年7月~9月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で6.4ポイント上昇し△22.8となりました。

今回調査期間中は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナウイルス）のまん延防止等重点措置や緊急事態宣言により、地元経済の停滞感が続き、厳しい状況で推移しました。

【2021年10月~12月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で14.2ポイントと大幅に上昇し、△8.6となっています。

業種名	時期	2021年 4月~6月		2021年 7月~9月		2021年 10月~12月 (予想)
全業種総合		☂ △29.2	➡ 6.4	☂ △22.8	➡ 14.2	☁ △8.6
製造業		☂ △50.0	➡ 19.2	☂ △30.8	➡ 22.9	☁ △7.9
卸売業		☂ △31.9	➡ 17.6	☂ △14.3	➡ 19.0	☁ 4.7
小売業		☂ △31.5	➡ △2.7	☂ △34.2	➡ 13.2	☂ △21.0
サービス業		☂ △39.7	➡ 8.9	☂ △30.8	➡ 1.0	☂ △29.8
建設業		☂ △17.2	➡ 5.8	☂ △11.4	➡ 24.2	☁ 12.8
不動産業		☁ 22.2	➡ △22.2	☁ 0.0	➡ 5.6	☁ 5.6

景況
天気図
の目安

D I
好調 ←

30
以上
☀

10以上
30未満
☁

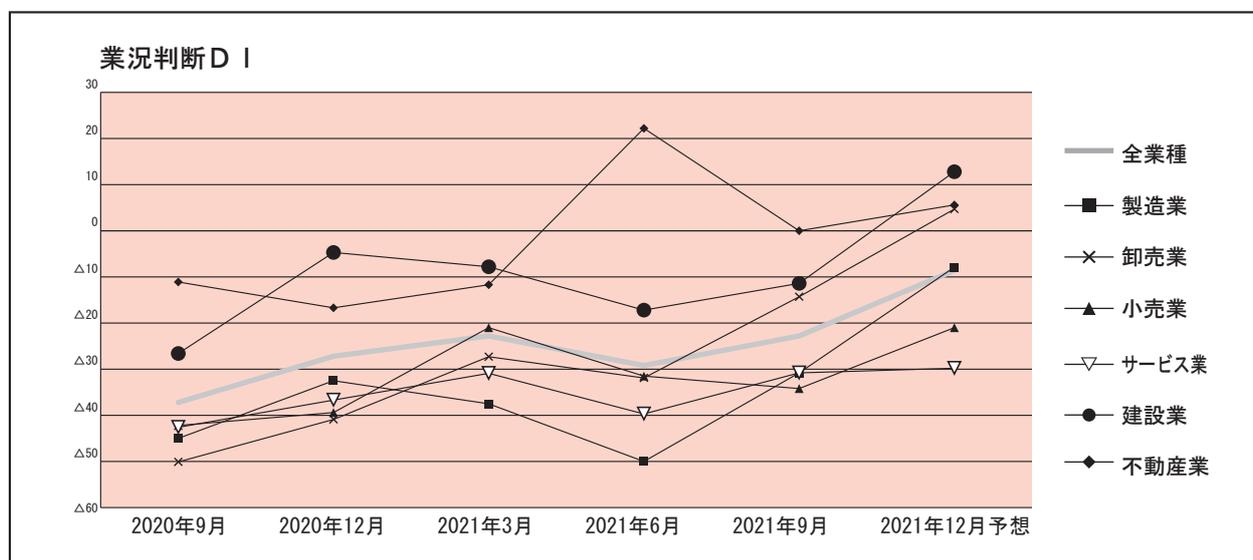
0以上
10未満
☁

△10以上
0未満
☂

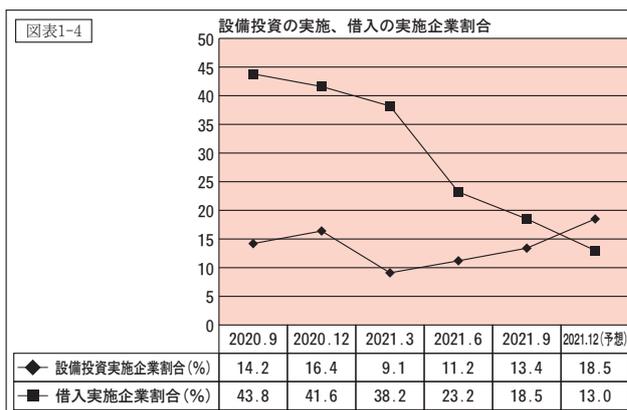
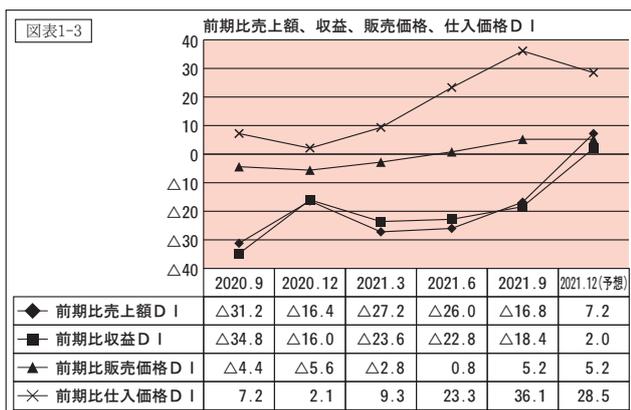
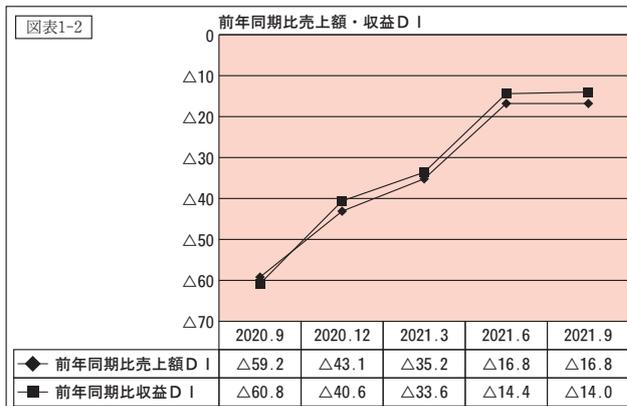
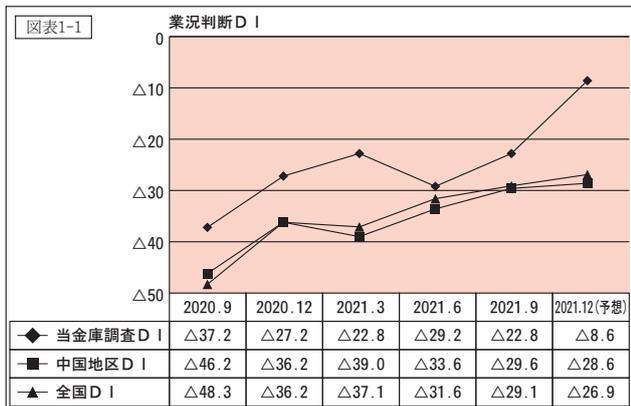
△30以上
△10未満
☂

△30
未満
☂

→ 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D Iは△22.8 前回調査比プラスも

依然大幅マイナス～

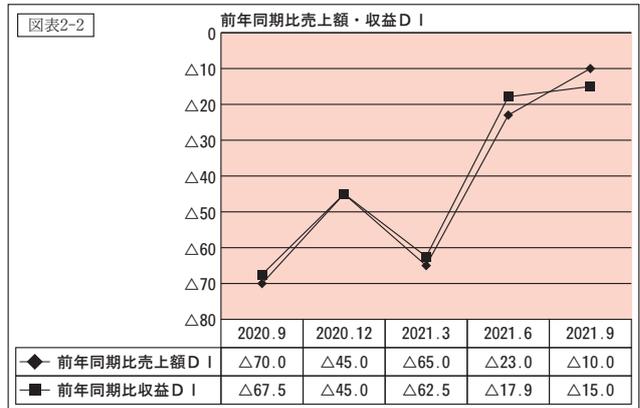
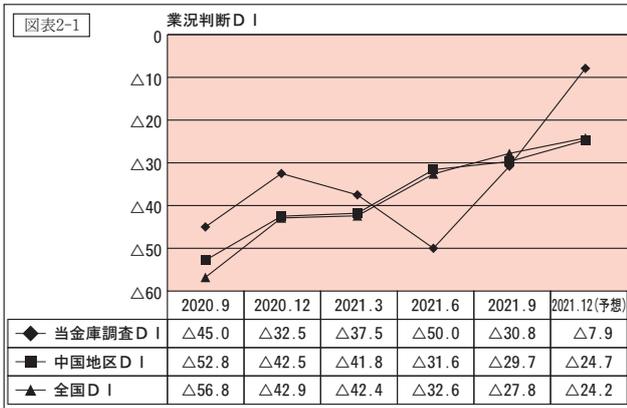
今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**6.4ポイントの上昇**により△29.2→△22.8となりました。依然としてマイナスですが、中国地区D I (△29.6)、全国D I (△29.1)と比較して当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間 (2021年10月～12月)の予想業況判断D Iは△22.8→△8.6と、今回調査比**14.2ポイントの大幅上昇予想**となっています。依然としてマイナスではあるものの、新型コロナワクチンの接種が進んだことにより、コロナウイルスの感染者が全国的に減少したことで、経済活動の活性化を期待していることが窺えます (図表1-1)。

前年同期比売上額D Iは△16.8、同収益D Iは△14.0となっています。前年同期も本年同様、コロナウイルスの感染が拡大し、経済活動に大きな影響を及ぼしていた時期であったことから、前年同期と変わらず厳しい状況であることが窺えます (図表1-2)。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は13.4%となり、前回調査比2.2ポイントの上昇、借入を実施した企業の割合は18.5%となり、前回調査比4.7ポイントの低下となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は18.5%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して5.1ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は13.0%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して5.5ポイントの低下となっています (図表1-4)。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業は50.0% (前回調査比△7.1ポイント) にのぼっており、依然として設備投資に慎重な企業が多いことが窺えます。

製造業



景況 ～今期大幅上昇 来期も大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△50.0→△30.8と前回調査比**19.2ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△30.8→△7.9と**22.9ポイントの大幅上昇予想**となっています(図表2-1)。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報(以下、「日銀月報」)によると、県内主要製造業の生産は、繊維等で一部弱めの動きとなっているものの、全体としては緩やかに持ち直しているとの判断となっています。本年6月期調査を底として、製造業は景況感の回復が期待できます。

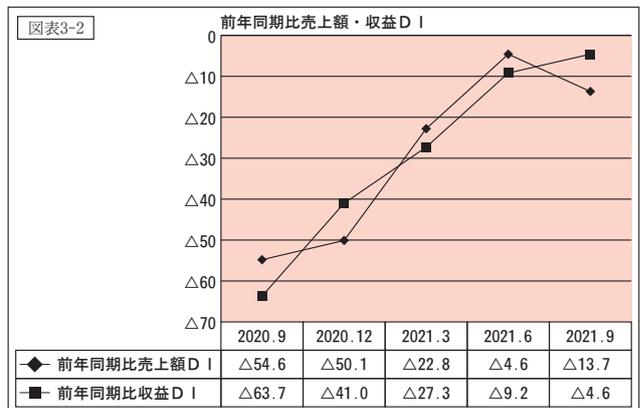
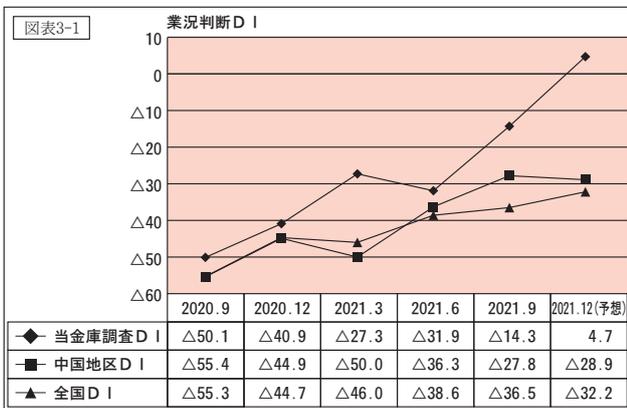
経営上の問題点において「原材料高」と「人手不足」の回答が大幅に上昇しています。現場作業員の不足を解決するために当面の重点経営施策においても「人材を確保する」の回答が大幅に上昇しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	45.0%	原材料高	37.5%	人手不足	25.0%
当面の重点経営施策	販路を広げる	60.0%	経費を節減する	42.5%	人材を確保する	30.0%

卸売業



景況 ～今期大幅上昇 来期も大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△31.9→△14.3と前回調査比**17.6ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△14.3→4.7と**19.0ポイントの大幅上昇**となり、**プラスに転換する予想**となっています(図表3-1)。

製造業、建設業等における景況感の回復傾向が卸売業にも好影響を与えているものと考えられます。

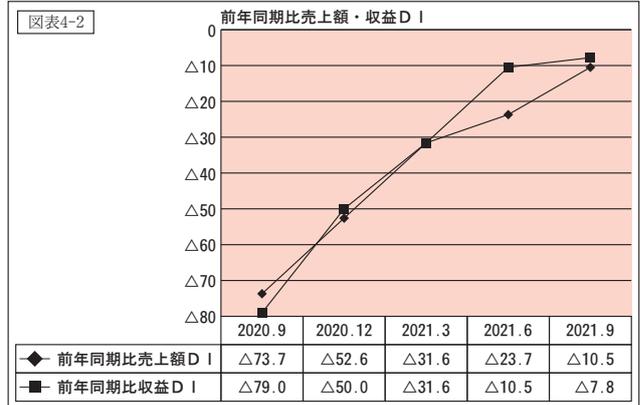
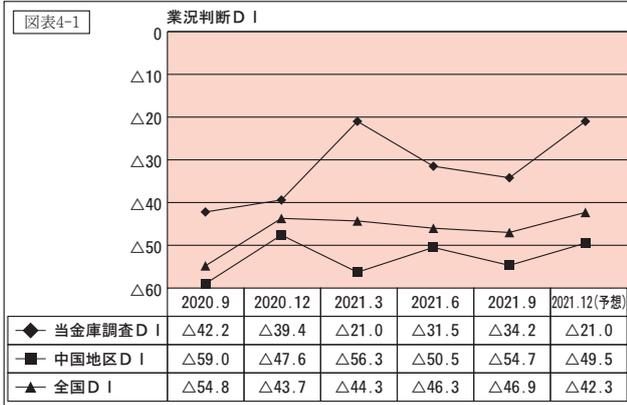
経営上の問題点では「仕入先からの値上げ要請」との回答が上昇しており、原材料高騰による価格転嫁交渉が要因と考えられます。当面の重点経営施策では「販路を広げる」との回答が大幅に増加しており、コロナウイルスの収束に伴い売上拡大方針の先が増えています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	45.5%	同業者間の競争の激化	31.8%	仕入先からの値上げ要請	18.2%
当面の重点経営施策	販路を広げる	72.7%	経費を節減する	31.8%	情報力を強化する	22.7%

小 売 業



景 況 ～今期若干低下 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△31.5ー△34.2と前回調査比**2.7ポイントの低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△34.2ー△21.0と**13.2ポイントの大幅上昇**予想となっています（図表4-1）。

「日銀月報」によると、個人消費は、百貨店・スーパー売上については持ち直しの動きが見られるものの、乗用車販売や家電販売については弱めの動きとなっており、取扱商品により差が出ています。

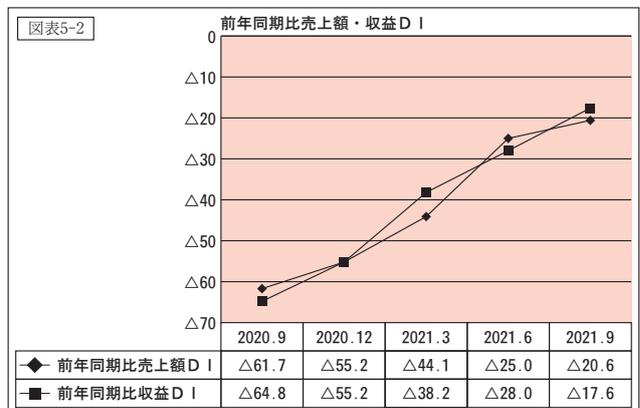
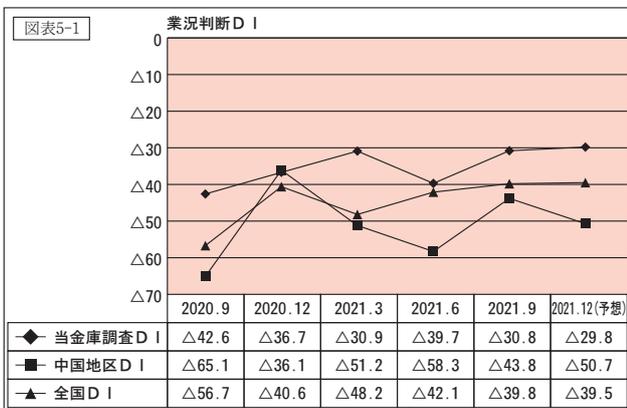
経営上の問題点では「同業者間の競争の激化」と「大型店との競争激化」との回答率が上昇しており、個人の消費マインドが戻りきらない中で顧客の奪い合いが起きていることが考えられます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	44.7%	同業者間の競争の激化	31.6%	大型店との競争激化	28.9%
当面の重点経営施策	経費を節減する	44.7%	売れ筋商品を取扱う	28.9%	宣伝・広告を強化する	21.1%

サービスマ



景 況 ～今期上昇 来期は若干上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△39.7ー△30.8と前回調査比**8.9ポイントの上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△30.8ー△29.8と**1.0ポイントの上昇**予想となっています（図表5-1）。

外出自粛ムードの継続により、サービス消費需要の低迷が続いており、業況判断としては引き続き低水準となっています。

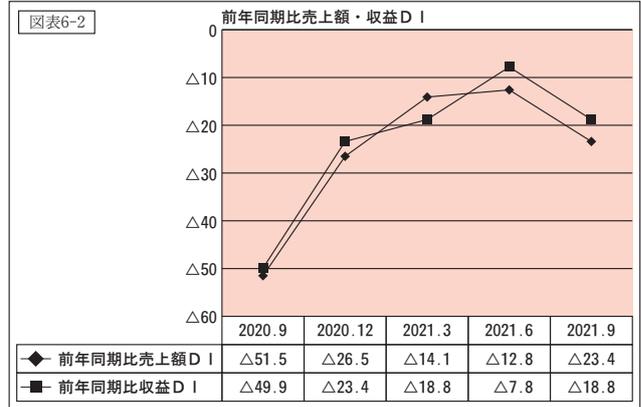
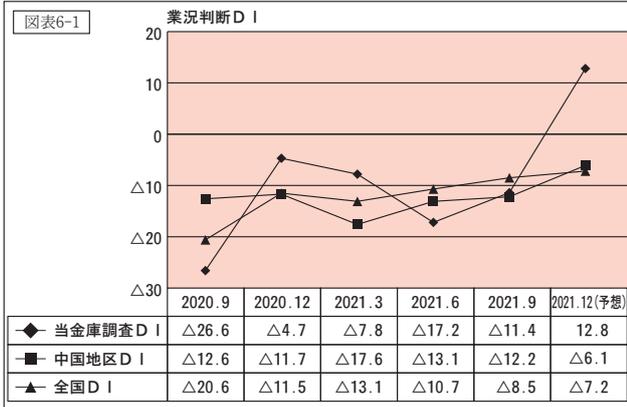
経営上の問題点では「売上の停滞・減少」との回答が依然として高くなっています。当面の重点経営施策では「販路を広げる」との回答が大幅に上昇しており、消費者へのアプローチ機会を増やし、売上増加につながる施策を検討している先が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	52.9%	同業者間の競争の激化	29.4%	人手不足	20.6%
当面の重点経営施策	販路を広げる	57.4%	経費を節減する	41.2%	人材を確保する	17.6%

建設業



景況 ～今期上昇 来期は大幅上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△17.2→△11.4と前回調査比**5.8ポイントの上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△11.4→12.8と**24.2ポイントの大幅上昇予想**となっています（図表6-1）。

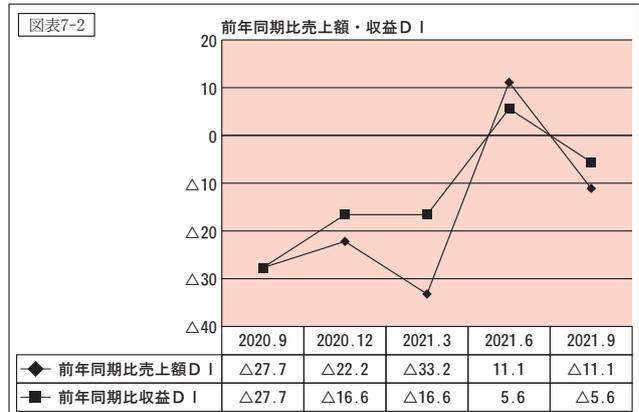
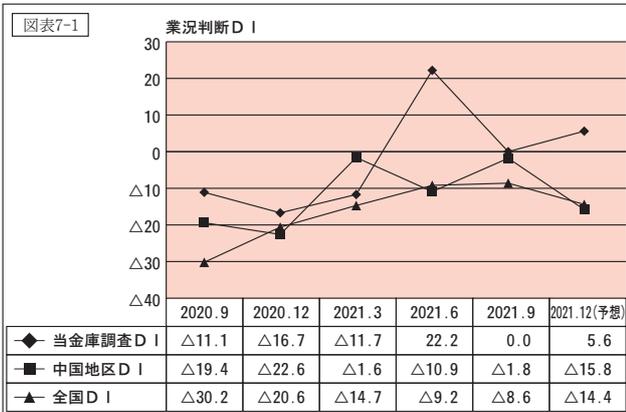
「材料価格の上昇」が依然として経営上の問題点となっていますが、コロナウイルスの収束傾向から、来期以降は停滞していた案件の再開が期待されており、予想業況判断も大幅上昇し、プラス転換となっています。それに伴い「人手不足」の問題も浮上してきており、「人材を確保する」を重点施策にあげている先が増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	46.9%	売上の停滞・減少	45.3%	人手不足	31.3%
当面の重点経営施策	販路を広げる	48.4%	人材を確保する	31.3%	情報力を強化する	25.0%
	経費を節減する	48.4%				

不動産業



景況 ～今期大幅低下 来期は上昇の予想～

今期の業況判断D Iは22.2→0.0と前回調査比**22.2ポイントの大幅低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは0.0→5.6と**5.6ポイントの上昇予想**となっています（図表7-1）。

前回調査時の予想のとおり、業況判断D Iが低下しています。要因としては経営上の問題点にもあげられている「商品物件の不足」と「商品物件の高騰」が考えられます。日銀月報においても住宅投資は依然として高水準での推移となっており、今後も同業者間での競争が続くことが予想されます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の不足	33.3%	同業者間の競争の激化	27.8%	売上の停滞・減少	22.2%
当面の重点経営施策	販路を広げる	44.4%	商品物件の高騰	27.8%	利幅の縮小	22.2%
			経費を節減する	33.3%	新しい事業を始める	5.6%
	情報力を強化する	44.4%	宣伝・広告を強化する	33.3%	人材を確保する	5.6%
					不動産の有効活用を図る	5.6%

調査先企業の声

製造業

- ・鉄の原材料費が高くなっており、仕入が厳しくなっている。コロナ融資の返済開始時期も近づいているので利益確保が必要。【製鉄】
- ・設備導入し売上増加したが、原材料の高騰により利幅を確保できない。【印刷】
- ・半導体不足による自動車メーカーの生産調整が影響し売上低迷。他分野進出を目指し新技術の導入等を図っていく。【自動車部品・鉄道部品製造】

卸売業

- ・倉敷美観地区および関連のリゾートホテル等がコロナウイルスの影響で集客力低下したことにより売上激減したが、緊急事態宣言が終了し、今後の集客回復に期待している。【土産物・贈答品卸売】
- ・コロナ禍により売上低下予想だったが、県外へ販路拡大した影響から増収増益となった。【米卸売】
- ・選挙関連で受注が増加。厳しい業界ではあるが、他社との差別化に力を入れて受注確保している。【印刷資材卸】

小売業

- ・自動車の新車供給不足により中古車需要が拡大しており、前期比増収となっている。【自動車・自動車部品販売】
- ・販路拡大のため、店頭販売以外にECサイトを立ち上げネット販売を開始する。【加工食料品販売】
- ・コロナウイルスの影響で書籍の据え置きをしない店舗が増えており、売上減少傾向。【書籍・文具販売】

サービス業

- ・大型受注を受けており売上好調。コロナ禍でテレワーク需要もあり、業界としては追い風となっている。【ソフトウェア開発】
- ・理美容院経営については例年並みの売上だが、昨年からの注力しているウィッグ販売事業の売上が徐々に増加。他社との競争に勝てるよう対策をおこなっている。【理美容】
- ・七五三祝い等、小規模のイベントが再開し売上回復しつつあるが、再度の感染拡大が起きた場合資金繰りに不安がある。【貸衣装】

建設業

- ・木材、鉄等の価格上昇が続いており、利益を圧迫している。利益率を意識した受注をおこなう方針。【建築工事】
- ・不安定な受注と収益性の低さを打破するため、産業廃棄物処理業への業種転換を検討している。【土木工事】
- ・大口受注等あり増収の傾向。現場技術者が不足しており、若年層の人材を求めている。【塗装工事】

不動産業

- ・コロナ禍でも売上に影響はない。経費面でもリモート会議を活用し、出張費、交際費が大幅に削減でき、利益増加につながった。【不動産仲介】
- ・学生アパートを中心に営業。大学のリモート授業の普及により一人暮らしの学生の途中退去が増加している。【不動産賃貸】
- ・岡山県の地価が高騰しており、利益も大きく確保できるようになっている。人気の土地をいかに早く確保できるかが重要。【不動産仲介】

Webビジネスマッチングサイト 「岡山県しんきん合同Webビジネス交流会“岡山CREATION”」 のご案内

このたび、岡山県下7信用金庫が主体となり、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた取組みとして、オンライン上でビジネスマッチングの機会を創出するサイト「岡山県しんきん合同Webビジネス交流会“岡山CREATION”」を創設いたしました。

“岡山CREATION”は24時間365日マッチング可能なサイトであり、高い利便性と参加事業者は信用金庫の取引先という安心感が特長です。

参加事業者同士の“商談”を通じて、新たな販路や仕入先の開拓、業種の枠を超えた事業者間連携の促進と、各種支援機関との相談の場を提供することで、参加事業者の事業価値向上、地域価値の発展、地方創生の一助となるべく、マッチングサービスを提供してまいります。

記

◆ サービス開始日

2021年11月24日（水）

◆ 対象者

岡山県内7信用金庫でお取引いただいている事業者の方（個人、法人問いません）

◆ 参加料（税込）

年間5,000円（毎年4月から3月の1年間）

※初回申込み特典として、2022年3月までにお申込みいただいた方は、5,000円の参加料で2023年3月までご利用いただけます。

◆ 申込方法

当金庫営業部に用意している申込用紙に必要事項をご記入のうえ、お申込みください。申込みを受け付けたのち、Webサイトに入るためのID、パスワードを、ご指定いただいたメールアドレス宛に送付いたします。

◆ ご利用の流れ

参加事業者は本サイト内に企業マイページとして自社のPRページを掲載いただきます。同様に、掲載いただいた他の参加企業のマイページを閲覧していただき、自社の「売りたい」「買いたい」「連携したい」といったニーズに合致した先に対してチャット機能を通じて問い合わせや商談オファーをおこなっていただきます。商談等については相手先との話し合いでリモート、面談どのような形でも結構です。なお、成約にかかる報酬等は一切いただきません。

◆ お問い合わせ先

- ・お取引いただいている当金庫営業部
 - ・おかやま信用金庫 価値創造部（担当：小倉、水田）
- TEL：0120-173-299（ガイダンス番号5）

以上

調査の要領

- 1) 調査時点 2021年10月8日～14日
- 2) 調査対象期間 2021年7月～9月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断D I）を中心に分析
※D I＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格D Iについては逆）
- 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	20	16	30	46	49	16	177	70.8%
10～19	9	2	5	11	9	2	38	15.2%
20～29	4	2	0	4	5	0	15	6.0%
30～49	1	1	3	3	1	0	9	3.6%
50以上	6	1	0	4	0	0	11	4.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	6	24	36	33	8	127	50.8%
10,000～49,999	17	16	13	29	31	10	116	46.4%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で6.4ポイント上昇し△22.8となりました。コロナウイルスの感染拡大から1年が経過し、今回調査期間においても、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の発令等があり、依然として厳しい状況が続いています。しかしながら新型コロナワクチン接種が進み、コロナウイルスも一旦収束の様子が見えていることから、来期の予想業況判断D Iは全業種で上昇予想となっています。おかやま信用金庫では引き続きコロナウイルスの感染状況を注視し、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2021.12 —
〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
<http://www.shinkin.co.jp/okayama/>
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp